

都市の『公共空間』は誰のものか： 日本・欧米の都市から

経済の低迷、人口減少、財政ひっ迫にあえぐ先進諸国の都市では、さまざまな都市政策が実践されてきました。また、国際的な投機や観光需要の爆発的増加への対応が各自治体に求められてきました。このような都市の変化は京都や大阪にも典型的にあらわれており、今あらためて「都市は誰のためのものか」が問われています。本シンポジウムでは、欧米の事例にも学びつつ、今後の日本の都市のあり方について考えていきます。

2023年2月23日(木・祝) 14:00-16:30 (日本時間)

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス (OIC) C471

対面・オンライン (Zoom) 併用

言語：日本語 (英語による同時通訳付き)

要事前登録
以下のフォームよりご登録ください
<https://tinyurl.com/2zpdyc6>



Core Session

- 14:00 - 14:05 ご挨拶 (仲谷善雄 立命館アジア・日本研究機構長/立命館大学長)
- 14:05 - 14:10 シンポジウムの趣旨と狙い 森 裕之
- 14:10 - 14:40 | 観光政策再考：ポスト・オーバーツーリズムに
おけるいくつかの論点 阿倍 大輔
- 14:40 - 15:10 | ジェントリフィケーション：NYと大阪 矢作 弘
- 15:10 - 15:25 | 高齢者の顕著な減少からみる都市空間の
公共性：大阪府を事例として 吉田 友彦
- 15:25 - 15:40 | 人口減少・高齢化と大都市の行財政：
京都と大阪の事例から 森 裕之
- 15:40 - 15:50 休憩
- 15:50 - 16:30 ディスカッション



司会者
発表者



森 裕之
立命館大学教授



発表者



阿倍 大輔
龍谷大学教授



矢作 弘
龍谷大学研究フェロー



吉田 友彦
立命館大学教授